



みんなで150周年に向かって！

川小だより

学校教育目標

・美点を認める明るい子 ・ルールを守る正しい子 ・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像・・・素直な子】

令和6年 3月 1日(金) No.14  
狭山市立入間川小学校  
〒350-1323 狭山市鶴ノ木5-9  
TEL 04-2952-6221 FAX 04-2952-6222

児童数 2/29 現在  
491名

## 言霊が宿る

校長 伊藤 秀一

少し前のことになりますが、2月5日午後から翌日早朝にかけて、久しぶりにまとまった雪が降りました。本校は3時間遅れの時程での対応となり、ご家庭にも急なご協力をお願いすることとなりました。ご対応に心から感謝申し上げます。6日には職員も早朝から出勤し、校内外の雪かきを行いました。あいさつ橋などの歩道橋や通学路の多くの箇所が、すでに雪かきされていました。きっと地域の方々がなさってくださったのだと思います。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。改めて、学校そして子供たちは多くの方々の「お陰様」によって成り立っていることを実感いたしました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、「言霊が宿る」という言葉をよく耳にします。私が肝に銘じていることの一つであり、好きな言葉でもあります。ご案内のとおり、「口にすることが現実になる。だからよい言葉を使ってよい未来を作りましょう」と古くから人々が実践してきたことです。

「よい言葉」とは非常に抽象的で捉えづらいことかと思いますが、「言語感覚」という言葉の定義からイメージすることができるかもしれません。学習指導要領には「言語感覚」について、「言語で理解（読む・聞く）したり表現（書く・話す）したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚」と示されています。このことから考えると、「正しい、場や時に相応しい、（適度に）美しい言葉を心がけて使うことで、相手にも自分にもよいことをもたらす」となります。

私は、国語科の授業はもちろん、その他の教科においても、子供たちにとって一番身近で影響を与える立場であることを、自負するとともに責任を重く受け止め、適切な言葉遣いを心がけてきたつもりです。ですから敢えて授業中と休み時間では使う言葉や使い方を変えるなどして、子供たちには、堅苦しくならない程度に、言語感覚を備えてほしいと思って接してきました。だからといって、一朝一夕に子供たちの言葉遣いを変えさせようと思ったわけではありません。感覚ですから、耳にしているうちに少しずつ成長し、誤った、或いは時や場に相応しくない言葉や言葉遣いに出合ったときに「それは違うのでは」と気づけるようになってほしいとの思いからでした。

よく低学年の児童から「校長先生絶好調！」という声援（駄洒落）をもらいます。体調は絶好調なのですが、職務面ではまだまだ修行不足ですので絶好調にはほど遠く、申し訳なく思い、いつも「絶好調になれように頑張るね！」などと返している次第です。しかしながら、子供たちの言葉からは間違いなく元気と勇気をもらい、絶好調に近づけるような気になります。まさに言霊が宿っているのだと思います。

現在、学校は学習面・生活面で学年の総まとめを行っております。忙しさにかまけて、つい言葉遣いについて意識が蔑ろになりがちです。しかし、このような時期だからこそ言霊を宿して、子供たちに言葉を届けたいと思うこの頃です。